2023 年 度

シ　ラ　バ　ス

理学療法学科　Ⅱ部　1年

学校法人　福田学園

大阪リハビリテーション専門学校

OSAKA COLLEGE OF REHABILITATION

授業科目	心理学			担当者	鈴木 暁子	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。					
到達目標	人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。					

授業計画

第1回　心理学の考え方①

第2回　心理学の考え方②

第3回　トラウマについて

第4回　人と音楽①

第5回　人と音楽②

第6回　人の性格①

第7回　人の性格②

第8回　学習①

第9回　学習②

第10回 記憶と知能

第11回 動機づけ①

第12回 動機づけ②

第13回 動機づけ③

第14回 社会心理学入門①

第15回 社会心理学入門②

評価方法

期末筆記試験100%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

教科書に載っている内容は、講義の後に読んで復習してください。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名	はじめて出会う心理学[第3版]
著者名	長谷川寿一　他
出版社	有斐閣アルマ

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

授業科目	心理学			担当者	鈴木 暁子	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	心理学は人間の心や行動を客観的に理解するための学問である。人間の心というブラックボックスを科学的に解き明かしていく心理学の研究方法は、私たちの身の回りの事象を客観的に理解する事にも役立つ。この広く深い学問の魅力をできる限り伝えたい。					
到 達 目 標	人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学習するとともに、国家試験科目である臨床心理学の基礎となる知識も身につける事を目標とする。					

留意事項

教科書は2020年に改訂されましたので、旧版を購入しないよう注意してください。配布資料が多いので整理の仕方を工夫してください。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	人間関係学			担当者	鈴木 暁子	
学科名	理学療法学科	学　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	対人援助職は、援助する相手との良い関係を築かねばならないし、自らの日常の人間関係も良好でなければ本当に良い援助をするのは難しい。対人援助の基礎となるカウンセリングマインド、リハビリテーションに活用したいコーチング、あらゆる場面で応用できるアサーションを中心に実習を交えて講義する。					
到達目標	良い人間関係を形成するための知識や方法を演習をしながら身につける。					

授業計画

第1回　カウンセリング入門①

第2回　カウンセリング入門②

第3回　カウンセリング入門③

第4回　カウンセリング入門④

第5回　人の心の発達と人間関係①

第6回　人の心の発達と人間関係②

第7回　アサーション入門①

第8回　アサーション入門②

第9回　認知療法とアンガーマネジメント

第10回 コーチング入門①

第11回 コーチング入門②

第12回 コーチング入門③

第13回 グループワーク

第14回 交流分析

第15回 まとめ

評価方法

期末筆記試験100%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

配布資料を読み返してください。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名	はじめて出会う心理学[第3版]
著者名	長谷川寿一　他
出版社	有斐閣アルマ

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	生命倫理学			担当者	林　貴啓	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	医療従事者として求められる現代社会の「生命」にまつわる倫理的課題について知識と思考力を培う。					
到達目標	生命倫理の基本的な問題について知識を得るとともに、自ら倫理的に考える習慣と思考力を身につける。					

授業計画

第1回　倫理とは

第2回　倫理のさまざまな考えかた　1

第3回　倫理のさまざまな考えかた　2

第4回　道徳的想像力

第5回　「共感」のために求められること

第6回　「自立」「健康」「障害」をめぐって考える

第7回　いのちの終わりをめぐって

第8回　脳死と臓器移植

第9回　出生前診断と選択的中絶

第10回 いのちの始まりをめぐって

第11回 学生が選んだテーマについて考える

第12回 〃

第13回 〃

第14回 〃

第15回 死生学の課題

評価方法

各回の授業課題　40%　期末レポート　60%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

各回のトピックについては、事前・事後の情報収集などを指示することがある（20-30分ほど）。

授業時間外の質問について

Moodle上で受け付けます。

教科書

書名

著者名

出版社

参考図書

書名

著者名

出版社

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	地域福祉学			担当者	山河　正裕	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	地域福祉の現状を踏まえ、その理念と展開、関連法制度などについて、実例をもとに医療・保健・福祉の役割・連携を考察することにより、地域福祉のあり方や課題を理解する。 また本講義では、子どもや障害者、高齢者などが地域社会で安心した暮らしを送れるため の様々な援助技術や考え方の基礎知識と活用について修得すると同時に、当事者やその家族を講師として招き、全人的な支援について学びます。					
到達目標	①地域社会を構成する一人として、地域の人々や暮らし、課題に対して関心を持つことができる ②地域福祉の推進にかかわるセラピストとしての役割と自覚について考えることができる。 ③社会福祉の歴史、社会資源の基礎知識、援助技術を修得することができる。 ④障害者やその家族のニーズや心理を理解することができる。					

授業計画

第1回　オリエンテーション　本講義の概要と地域福祉の理念

第2回　社会資源の形成過程Ⅰ　戦後の障害者施策の経緯

第3回　社会資源の形成過程Ⅱ　無認可障害者作業所と地域福祉の現状

第4回　障害当事者・家族による講義と交流①　障害の受容について（当事者1名）

第5回　社会福祉の歴史と仕組みⅠ　優生思想とノーマライゼーション

第6回　社会福祉の歴史と仕組みⅡ　社会保障制度の基礎知識

第7回　障害当事者・家族による講義と交流②　介護殺人・介護心中について（家族1名）

第8回　地域福祉の現状と課題Ⅰ　現代社会が抱える地域福祉の課題

第9回　地域福祉の現状と課題Ⅱ　ケアマネジメントとコミュニティソーシャルワーク

第10回　障害当事者・家族による講義と交流③　当事者にとってのリハビリテーションとは（当事者1名）

第11回　地域福祉の推進と関連法制度Ⅰ　障害者総合支援法と介護保険①

第12回　地域福祉の推進と関連法制度Ⅱ　障害者総合支援法と介護保険②

第13回　地域福祉の推進と関連法制度Ⅲ　障害者総合支援法と介護保険③

第14回　今後の医療・福祉の制度設計　地域包括ケアシステムと障害者権利条約

第15回　障害当事者・家族による講義と交流④　高次脳機能障害者と地域生活（当事者1名）

評価方法

筆記試験（100％）で評価します。

授業時間外の学習（予習・復習等）について

居住地の市町村社会福祉協議会の活動内容について、ホームページや広報紙などにより事前に把握しておいてください。
また、日頃から社会保障関連（医療・介護・年金など）の報道などに注視してください。

授業科目	地域福祉学			担当者	山河　正裕	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	地域福祉の現状を踏まえ、その理念と展開、関連法制度などについて、実例をもとに医療・保健・福祉の役割・連携を考察することにより、地域福祉のあり方や課題を理解する。また本講義では、子どもや障害者、高齢者などが地域社会で安心した暮らしを送れるため の様々な援助技術や考え方の基礎知識と活用について修得すると同時に、当事者やその家族を講師として招き、全人的な支援について学びます。					
到 達 目 標	①地域社会を構成する一人として、地域の人々や暮らし、課題に対して関心を持つことができる ②地域福祉の推進にかかわるセラピストとしての役割と自覚について考えることができる。 ③社会福祉の歴史、社会資源の基礎知識、援助技術を修得することができる。 ④障害者やその家族のニーズや心理を理解することができる。					

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　rasinban@ceres.ocn.ne.jp

教科書

書名	
著者名	
出版社	

参考図書

書名	いのちを選ばないで
著者名	藤井克徳・池上洋通・石川満・井上英夫
出版社	大槻書店

留意事項

無断欠席や遅刻に注意してください。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	自然科学概論			担当者	林 研	
学科名	理学療法学科	学　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	現代医療は科学であり、医療にたずさわるには科学的なものの考え方や基本的な科学知識を身につけておくことが必要です。この科目では科学の基礎を押さえるために、高校理科の重要なところを改めて確認するとともに、現代科学の様々なトピックについて学びます。					
到達目標	人間の身体を理解する土台となる基礎知識と科学的素養を身につけることが目標となります。科学の各分野について、不明なことがあれば調べて理解できる素地が作られます。					

授業計画

第1回　科学の歴史と方法

第2回　古典力学

第3回　宇宙と物理

第4回　物質と化学反応

第5回　エネルギーと環境

第6回　細胞と遺伝子

第7回　医学史と脳

第8回　科学と現代社会

評価方法

筆記試験(100%)

授業時間外の学習(予習・復習等)について

物理・化学については復習問題を出す場合があります。その場合は翌週までに各自問題を解いておくこと。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　f13644@ocr.ac.jp

教科書

書名　使用しません。配布プリントを利用します。

著者名

出版社

参考図書

書名

著者名

出版社

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	情報処理			担当者	阪本 豪	
学科名	理学療法学科	学　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	

内 容	Microsoft Windows©を使用しファイル・フォルダの管理を理解する。また Microsoft Office ©アプリケーションのうち主にWordとExcelを使用し、レポート作成時などに役立つ機能を学習する。 その他、PowerPointアプリケーションを利用したプレゼンテーション資料作成や、インターネット利用におけるセキュリティと情報モラルについても一部紹介する。
到達目標	・PCから利用するWebメールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。 （データファイルの添付やダウンロード操作を含む） ・PCキーボードからの文章入力（日本語・漢字変換や英数字記号）がスムーズにできる。 ・講義で取り上げるWord／Excelの一部機能を理解し、操作できる。 ・Word文書とExcel表を組み合わせて利用できる。 ・作成または取得したデータファイルを目的の場所に保存し管理、利用できる。 （学校発行のG-mailアドレス利用に伴い、Googleドライブ：クラウドの利用を含む）

授業計画

第1回	授業概要。Windows10初回利用設定（パスワード設定）。 ブラウザの利用。学校メールアドレスの利用。eメール送受信。 フォルダ及びファイル作成。メールへのファイル添付。タイピング練習方法。 遠隔受講への備えを兼ねた講義支援システムMoodleの紹介と受講（操作）の紹介。
第2回	学校メール（G-mail）ログイン確認。ファイル管理（フォルダ及びファイル作成） クラウド（Googleドライブ）または外部メディア（USBメモリ）の利用。 Word①画面構成とコマンドの使い方、入力（変換）操作の注意点。
第3回	Word②文書の編集。ページ設定／書式設定（段落書式／文字書式の違いと操作）。
第4回	Word③新規文書作成と表組。その他オブジェクトの種類紹介と作成・編集。
第5回	Excel①画面構成と利用目的の紹介。計算式と自動再計算。関数の紹介。
第6回	Excel②データ入力支援、データ処理用の機能紹介。グラフ機能の紹介。
第7回	PowerPoint基本機能紹介。 Word×Excel（相互利用）の基本。Word文書内にExcelオブジェクトを貼り付け・編集する。
第8回	修了テスト（課題ファイル作成・提出）

評価方法

総合演習課題（設問に従って提出ファイルを作成・編集・提出）　90%
「受講後の操作ファイル」の提出　10%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

PCのキーボードタイピングには個人差があるため、期初に紹介する「オンライン上の練習サイト」上での「目標レベル」を目安に各自練習を行うこと。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　kyomu@ocr.ac.jp

授業科目	情報処理			担当者	阪本　豪	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	Microsoft Windows©を使用しファイル・フォルダの管理を理解する。また Microsoft Office ©アプリケーションのうち主にWordとExcelを使用し、レポート作成時などに役立つ機能を学習する。 その他、PowerPointアプリケーションを利用したプレゼンテーション資料作成や、インターネット利用におけるセキュリティと情報モラルについても一部紹介する。					
到達目標	・PCから利用するWebメールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。 （データファイルの添付やダウンロード操作を含む） ・PCキーボードからの文章入力（日本語・漢字変換や英数字記号）がスムーズにできる。 ・講義で取り上げるWord／Excelの一部機能を理解し、操作できる。 ・Word文書とExcel表を組み合わせて利用できる。 ・作成または取得したデータファイルを目的の場所に保存し管理、利用できる。 （学校発行のG-mailアドレス利用に伴い、Googleドライブ：クラウドの利用を含む）					

教科書

書名	Office2019で学ぶコンピュータリテラシー（ISBN：978-4-407-34889-7）
著者名	小野目如快
出版社	実教出版

参考図書

書名	「高校の情報1が1冊でしっかりわかる本」
著者名	鎌田高穂・鹿野利春
出版社	かんき出版

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	統計学			担当者	周藤　俊治	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	保健医療分野の論文や報告書などで出てくる統計処理の結果や手法などについて理解し、実際に読み取れるようになることを目的に講義を行う					
到達目標	1)代表値や散布度を算出できる 2)研究デザインについて説明できる 3)適切な分析手法を選択できる					

授業計画

第1回　研究法(1)量的研究(観察研究)

第2回　研究法(2)量的研究(介入研究)

第3回　ROC曲線

第4回　統計解析(1)記述統計(度数, 代表値)

第5回　統計解析(2)推測統計(散布度)

第6回　統計解析(2)推測統計(推定)

第7回　統計解析(3)推測統計(検定)

第8回　まとめ

評価方法

筆記試験100%

授業時間外の学習(予習・復習等)について

授業中取り扱った課題を復習すること

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　f13606 @ocr.ac.jp

教科書

書名	最新理学療法講座　理学療法研究法
著者名	対馬栄輝
出版社	医歯薬出版株式会社

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

復習時には講義情報(https://medbb.net)を確認すること。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	医学英語			担当者	近藤 未奈	
学科名	理学療法学科	学　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、専門用語の成り立ちを、特に理学療法分野に関連の深いものから重点的に学びます。また、英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習します。英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。					
到達目標	医学英語に特有の英語表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に理解できる力を身に付けることを目標とします。					

授業計画

第1回　イントロダクション：医療分野における英語の必要性について／医学英語の基本構造

第2回　接尾辞と接頭辞

第3回　英語文献を読むための必須文法項目 (1)

第4回　身体部位の用語

第5回　骨の用語

第6回　英語文献を読むための必須文法項目 (2)

第7回　筋肉の用語

第8回　神経の用語

第9回　英語文献を読むための必須文法項目 (3)

第10回 英文読解 (1) 症例を読む

第11回 英語論文の基礎知識 (1)　論文・抄録の構造と読み方

第12回 英文読解 (2)　論文の抄録（アブストラクト）を読む

第13回 英語論文の基礎知識 (2)　英語データベースの利用方法

第14回 英文読解 (3) カルテを読む

第15回 医療現場の英会話

評価方法

授業への取り組み（問題演習の解答発表など、積極的な受講態度）を30%、課題の評価（小テスト、レポート課題）を30%、筆記試験を40%として、総合的に評価します。

授業時間外の学習（予習・復習等）について

毎回の授業で学んだ新しい内容はすぐに復習し、覚えるべき内容を確実に定着させていくこと。語句についての学習事項は特に、意識して覚えるようにすることで後の授業内容にも役立ちます。英文読解の予習課題が出た場合は辞書や用語集でわからない語句の意味をあらかじめ調べ、適切な和訳を作成してくること。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　f13343@ocr.ac.jp

授業科目	医学英語			担当者	近藤 未奈	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	この授業では、医療の現場で使われている英語表現や基本的用語、専門用語の成り立ちを、特に理学療法分野に関連の深いものから重点的に学びます。また、英語文献・論文の内容を正確に読むために必要な文法項目を復習します。英語論文の抄録を読む演習も適宜行います。					
到 達 目 標	医学英語に特有の英語表現に慣れ、国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている英語文献の内容を正確に理解できる力を身に付けることを目標とします。					

教科書

書名	音声と例文でおぼえる基本医療単語1000
著者名	笹島茂, Chad Godfrey, 小島さつき
出版社	南雲堂

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

小テストは指定の教科書より出題します。テストの詳細は初回授業で説明します。
授業中に英和辞典（電子辞書可／高校英語に対応できるレベルのもの）が必要となるので、毎回必ず持参すること。
毎回配布される資料は教科書として扱うものであり、以前のページをしばしば参照します。よって過去に配布されたものも毎回持ってきてください。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	コミュニケーション論			担当者	越智　久雄	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	医療面接の重要性を理解し、適切な医療面接を実施出来るように、面接技法を修得する。					
到 達 目 標	医療面接において、様々な患者様、場面などに応じて適切に面接技法を選択して面接が実施できる。					

授業計画

第1回　医療面接の重要性について

第2回　援助的態度について

第3回　コミュニケーションの基本的事項について

第4回　面接技法の解説とその修得

第5回　グループ演習　1

第6回　グループ演習　2

第7回　グループ演習　3

第8回　グループ演習　4

評価方法

授業への取り組み　100%　※遅刻、欠席は減点する。

授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業の進行に合わせて、配布資料を勉強しておくこと。
復習：学んだことは確実に復習し、臨床で活かせる知識にしておくこと。
グループ演習では、積極的に参加して、面接技法を修得すること。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　hisao.ochi@ocr.ac.jp

教科書

書名

著者名

出版社

参考図書

書名

著者名

出版社

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	解剖学			担当者	早﨑　華	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	3単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内　容	正常な人体の神経や内臓の構造と機能について学習する。					
到達目標	人体の肉眼レベル、組織レベルの構造と機能、主な神経回路について理解できる。					

授業計画

第1回　解剖学総論

第2回　骨学総論

第3回　筋学総論(骨格筋、心筋、平滑筋、骨格筋の構造)

第4回　筋学総論(筋紡錘、筋線維、神経支配)

第5回　神経学総論(神経細胞)

第6回　神経学総論(中枢神経と末梢神経)

第7回　神経学総論(自律神経)

第8回　神経学総論(自律神経)

第9回　脊髄神経と骨格筋

第10回 循環器総論

第11回 循環器(心臓)

第12回 循環器(動脈1)

第13回 循環器(動脈2)

第14回 循環器(静脈・リンパ管)

第15回 循環器(胎児循環)

第16回 消化器総論

第17回 消化器(胃、十二指腸、結腸、大腸)

第18回 消化器(肝臓、胆嚢、すい臓)

第19回 消化器(腹膜、上皮組織)

第20回 呼吸器1

第21回 呼吸器2

第22回 呼吸器3

第23回 泌尿器1

第24回 泌尿器2

第25回 泌尿器2

第26回 男性生殖器

第27回 女性生殖器

第28回 感覚器(皮膚)

第29回 感覚器(聴覚器)

第30回 感覚器(視覚器)

第31回 脳の区分1

第32回 脳の回と溝

第33回 大脳基底核と脳の線維

第34回 脳の発生、脳室、髄膜1

第35回 脳の発生、脳室、髄膜2

授業科目	解剖学			担当者	早﨑　華	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	3単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内　容	正常な人体の神経や内臓の構造と機能について学習する。					
到 達 目 標	人体の肉眼レベル、組織レベルの構造と機能、主な神経回路について理解できる。					

第36回 脳の動脈

第37回 脳の静脈

第38回 間脳

第39回 脳幹

第40回 辺縁系と小脳

第41回 脳神経1

第42回 脳神経2

第43回 脳神経3

第44回 伝導路（上行性）

第45回 伝導路（下行性）

評価方法

筆記試験　80％（前期試験・後期試験）　小テスト　20％
各学期の成績を平均して評価を行う。

授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学は専門用語が多い科目です。予習は関連する範囲の単元を教科書で読んでおいてください（約30分）。
授業後の復習をしっかりとするよう心がけて下さい（約1時間）。また配布資料が多い科目ですので、ファイルするなど、配布資料の整理整頓を心がけて下さい（約30分）。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　kyomu@ocr.ac.jp

教科書

書名	「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学」
著者名	渡辺正仁監修
出版社	廣川書店
書名	ネッター解剖学アトラス原書第6版もしくはネッター解剖学 セット版(電子書籍付)第7版
著者名	相磯貞和訳
出版社	南江堂

留意事項

骨標本や模型標本を使用します。貴重なものですので丁寧に扱ってください。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	解剖学実習			担当者	早﨑　華	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内　容	骨や骨格筋の構造とそれを支配する神経の機能について学習する。					
到 達 目 標	骨・筋・関節の構造と機能を知り、それに分布する分布する脊髄神経について理解する。					

授業計画

第1回　骨学:全身骨格

第2回　骨学総論

第3回　骨学総論

第4回　骨学:脊柱

第5回　骨学:脊柱

第6回　骨学:脊柱

第7回　骨学:上肢帯、胸郭

第8回　関節学総論

第9回　関節学総論

第10回 関節学:脊柱、胸郭の関節

第11回 関節学:脊柱、胸郭の関節

第12回 骨学:自由上肢骨1

第13回 骨学:自由上肢骨2

第14回 関節学:上肢の関節1

第15回 関節学:上肢の関節2

第16回 腕神経叢1

第17回 腕神経叢2

第18回 筋学実習のすすめかた　筋学:上肢帯から上腕への筋

第19回 筋学:軸骨格から上腕、上肢帯の筋

第20回 筋学:上腕の筋

第21回 筋学:前腕前面の筋

第22回 筋学:前腕前面の筋

第23回 まとめ

第24回 筋学:前腕後面の筋

第25回 筋学:前腕後面の筋

第26回 筋学:手の筋

第27回 骨学:下肢の骨

第28回 下肢の関節

第29回 下肢の関節

第30回 腰神経叢・仙骨神経叢

第31回 筋学:殿部の筋

第32回 筋学:殿部の筋

第33回 筋学:大腿前面の筋

第34回 筋学:大腿前面の筋

第35回 筋学:大腿後面の筋

授業科目	解剖学実習			担当者	早﨑　華	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内　容	骨や骨格筋の構造とそれを支配する神経の機能について学習する。					
到 達 目 標	骨・筋・関節の構造と機能を知り、それに分布する分布する脊髄神経について理解する。					

第36回 筋学:大腿後面の筋

第37回 筋学:大腿内面の筋

第38回 筋学:大腿内面の筋

第39回 筋学:下腿の筋

第40回 筋学:下腿の筋

第41回 筋学:腹部の筋

第42回 筋学:胸郭の筋

第43回 頚神経叢

第44回 筋学:頚部の筋

第45回 骨学:頭蓋骨

評価方法

筆記試験　80%(前期試験・後期試験)　小テスト　20%
各学期の成績を平均して評価を行う。

授業時間外の学習(予習・復習等)について

解剖学は専門用語が多い科目です。予習は関連する範囲の単元を教科書で読んでおいてください(約30分)。
授業後の復習をしっかりとするよう心がけて下さい(約1時間)。また配布資料が多い科目ですので、ファイルするなど、配布資料の整理整頓を心がけて下さい(約30分)。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　kyomu@ocr.ac.jp

教科書

書名	「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学」
著者名	渡辺正仁監修
出版社	廣川書店
書名	ネッター解剖学アトラス原書第6版もしくはネッター解剖学 セット版(電子書籍付)第7版
著者名	相磯貞和訳
出版社	南江堂

留意事項

骨標本や模型標本を使用します。貴重なものですので丁寧に扱ってください。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	生理学			担当者	木村　晃大	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内　容	人体の各臓器の機能を学習することで、1個体が総体としてどの様にして生命活動を維持しているのかを理解する。					
到達目標	各臓器の機能を理解するだけでなく、生理学の学習を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。					

授業計画

第1回　細胞と内部環境(総論)

第2回　筋肉1(筋、運動)

第3回　筋肉2(筋肉)

第4回　神経1(神経)

第5回　神経2(神経)

第6回　末梢神経(神経)

第7回　自律神経

第8回　中枢神経1(神経、運動)

第9回　中枢神経2(神経)

第10回　中枢神経3(感覚)

第11回　中枢神経4(感覚)

第12回　中枢神経5(言語)

第13回　代謝1(栄養・代謝)

第14回　代謝2(体温調節)

第15回　前期総括

第16回　血液1(血液)

第17回　血液2(免疫)

第18回　循環器1(循環)

第19回　循環器2(循環)

第20回　呼吸器1(呼吸)

第21回　呼吸器2(呼吸)

第22回　腎臓1(排尿)

第23回　腎臓2(排尿・呼吸(酸・塩基平衡))

第24回　消化器1(消化・吸収)

第25回　消化器2(咀嚼・嚥下・排便)

第26回　内分泌1

第27回　内分泌2

第28回　内分泌3(内分泌・生殖)

第29回　性と生殖(生殖)

第30回　後期総括

授業科目	生理学			担当者	木村　晃大	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内　容	人体の各臓器の機能を学習することで、1個体が総体としてどの様にして生命活動を維持しているのかを理解する。					
到 達 目 標	各臓器の機能を理解するだけでなく、生理学の学習を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。					

評価方法

科目試験≪前期試験・後期試験≫(70%), 小テスト(10%), プレテスト(10%),
生理学Webの次週までの宿題および最終的な達成度(10%)
※生理学Webの宿題は次週の講義の予習および小テスト対策に相当します。

授業時間外の学習(予習・復習等)について

各講義後に提示する生理学Webの範囲を各Stageについて、次週までに達成度50%以上にすることが宿題となります。
授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　akihiro.kimura@ohsu.ac.jp

教科書

書名	標準理学療法学・作業療法学　専門分野　生理学
著者名	岡田　隆夫・鈴木敦子・長岡　正範
出版社	医学書院

参考図書

書名	標準生理学
著者名	本間 研一　他
出版社	医学書院

留意事項

生理学は国家試験でも多数出題され、解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目です。臨床医学を学ぶ上での土台となるということを意識して授業に臨んで下さい。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	生理学実習			担当者	木村　晃大	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。					
到 達 目 標	人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。					

授業計画

第1回　オリエンテーション・伸張反射

第2回　随意運動

第3回　酸塩基平衡

第4回　呼吸

第5回　VT(換気性作業閾値)

第6回　心電図・測定

第7回　心電図

第8回　血圧の調節・測定

第9回　血圧の調節

第10回 スパイロメーター

第11回 脳神経

第12回 ブラウンセカール症候群

第13回 盲点

第14回 予備日程

第15回 プレテスト・実習総括

評価方法

科目試験(40%), レポート(30%), 小テスト(10%), プレテスト(10%)
生理学Webについての次週までの宿題・最終的な達成度(10%)

授業時間外の学習（予習・復習等）について

レポート作成の為の調べものと、小テスト対策としての生理学Webの勉強が主な授業時間外の学習となります。
生理学講義で学んだ知識をもとにして、生理学実習では"理解する"ことを重視した講義を行います。また、自分が理解できないメカニズムに対してまず参考書などを調べて考えてみることで、"課題を自分で解決できる様になる"事も一つの目標にしています。同時に、学生間で議論することで、一人だけで勉強するよりも情報量が増えて理解が深まることを体験して貰う事も近年意識しています。全ての内容は国家試験に直結します。積極的に色々な参考書を調べてレポートを作成し、各項目について理解を深める様に努めて下さい。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　akihiro.kimura@ohsu.ac.jp

授業科目	生理学実習			担当者	木村　晃大	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学習する。					
到 達 目 標	人の生理機能を自らの手で計測し、その結果を解析・考察する事により、人体機能のダイナミクスやホメオスタシスが維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養う。					

教科書

書名	
著者名	
出版社	

参考図書

書名	標準生理学
著者名	本間 研一　他
出版社	医学書院

留意事項

レポート提出は期限厳守。レポート未提出・レポートのコピー(した方・させた方両者とも)は再履修とします。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	運動学			担当者	越智　久雄	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	①運動を構成する器官の解剖と生理について学習する。 ②身体の各関節の構造を理解し、その動きについて学習する。 ③身体の各関節を動かしている骨格筋、神経支配を学習する。 ④姿勢や歩行・各動作の運動学的な観察や分析を学習する。					
到 達 目 標	①関節の構造やその動きを理解出来る。 ②姿勢や歩行・各動作を運動学的に説明できる。					

授業計画

第1回　生体の構造と機能

第2回　関節の構造と機能

第3回　骨格筋の構造と機能

第4回　脊柱と体幹の構造と機能

第5回　肩甲帯の運動

第6回　肩関節の運動

第7回　肘関節と前腕の運動

第8回　手関節・手指の運動

第9回　股関節の運動

第10回 膝関節の運動

第11回 足関節・足部の運動

第12回 脊柱と体幹の運動

第13回 顎関節の運動、骨盤の運動

第14回 呼吸運動

第15回 姿勢・歩行と運動学習

評価方法

定期試験　90%　　小テスト　10%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業の進行に合わせて、教科書と配布資料を勉強しておくこと。
復習：学んだことは確実に復習し、臨床で活かせる知識としておくこと。
関節の構造、運動とそれに関わる筋、関節包内運動については、しっかり勉強して、暗記しておくこと。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　　hisao.ochi@ocr.ac.jp

授業科目	運動学			担当者	越智　久雄	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	①運動を構成する器官の解剖と生理について学習する。 ②身体の各関節の構造を理解し、その動きについて学習する。 ③身体の各関節を動かしている骨格筋、神経支配を学習する。 ④姿勢や歩行・各動作の運動学的な観察や分析を学習する。					
到 達 目 標	①関節の構造やその動きを理解出来る。 ②姿勢や歩行・各動作を運動学的に説明できる。					

教科書

書名	基礎運動学
著者名	中村隆一ら
出版社	医歯薬出版
書名	筋骨格系のキネシオロジー
著者名	監訳者　Paul D.Andrew　有馬　慶美
出版社	医歯薬出版

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	人間発達学			担当者	横田　浩子	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	人間の全生涯に渡る、身体的・運動的、感覚・認知的、心理的、社会的等、各側面の発達について学習する。					
到 達 目 標	理学療法士に必要な人間の全生涯に渡る人間発達について基本的知見を得る。					

授業計画

第1回　総論①　人間とは

第2回　総論②　人間発達学とは

第3回　総論③　発達の定義・研究法

第4回　各論①　出生前発達と出生

第5回　各論②　新生児の生理機能

第6回　各論③　新生児の生理・反射

第7回　各論④　乳幼児の発達Ⅰ

第8回　各論⑤　乳幼児の発達Ⅱ

第9回　各論⑥　乳幼児の発達Ⅲ

第10回　各論⑦　学童期の発達

第11回　各論⑧　障害児の支援

第12回　各論⑨　青年期の発達Ⅰ

第13回　各論⑩　青年期の発達Ⅱ

第14回　各論⑪　成人期の発達

第15回　まとめ

評価方法

課題レポートの提出とグループワークへの参加20%　筆記試験80%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

配付された講義のまとめプリントの記入をして下さい。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名	生涯人間発達学
著者名	上田礼子
出版社	三輪書房

参考図書

書名	リハビリテーションのための人間発達学
著者名	大城昌平　編集
出版社	メディカルプレス

留意事項

発達を課題にしたグループワークを主体に授業を進めますので積極的に参加して下さい。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	臨床心理学			担当者	藤井　章乃	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	臨床心理学の基本的な理解を学習し、人格理論、心理アセスメント、心理療法を実際の支援をイメージしながら理論と技法について学ぶ。					
到 達 目 標	自己理解、他者理解を深め、臨床の場での心理的支援について習得する。					

授業計画

第1回　臨床心理学概論

第2回　心とは何か　実習

第3回　人格理論　フロイト

第4回　人格理論　ユング

第5回　人格理論　ロジャーズ

第6回　人格理論　まとめ

第7回　パーソナリティ理論

第8回　心理アセスメント

第9回　心理テスト　質問紙法

第10回　心理テスト　投影法

第11回　心理療法　クライエント中心療法

第12回　心理療法　傾聴訓練

第13回　心理療法　精神分析療法　分析的心理療法　遊戯療法

第14回　心理療法　芸術療法　家族療法

第15回　心理療法　行動療法

評価方法

授業後の振り返りの感想と実習後のレポート　30%
筆記試験　70%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内でお伝えします。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　kyomu@ocr.ac.jp

教科書

書名	心とかかわる臨床心理
著者名	川瀬正裕
出版社	ナカニシヤ出版

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	病理学概論			担当者	橋本　和明	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	疾患がどのような原因・メカニズムで発症し、臓器・組織にどのような変化を生じ、どのような機能障害を生ずるかを理解する。					
到 達 目 標	病理学総論の基礎を理解する。					

授業計画

第1回　病因について

第2回　退行性病変・進行性病変について

第3回　代謝障害について

第4回　循環障害について

第5回　免疫について

第6回　炎症と感染症について

第7回　腫瘍について

第8回　老化・遺伝・先天異常・奇形について

評価方法

筆記試験100％

授業時間外の学習（予習・復習等）について

他の講義・実習で学んだ疾患についても常に病理学的な視点も併せて理解してください。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、教務事務を通じて、回答いたしますので、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　kyomu@ocr.ac.jp

教科書

書名	標準理学療法学・作業療法学　病理学　第4版
著者名	梶原博毅・横井豊治・村雲芳樹
出版社	医学書院

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	リハビリテーション概論			担当者	越智　久雄・中平　剛志	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	リハビリテーションの理念、歴史、役割について学習する。					
到 達 目 標	リハビリテーションのイメージを捉え、障害の構造について理解することができる。					

授業計画

第1回　理学療法の歴史について

第2回　リハビリテーションと理学療法について

第3回　リハビリテーションのゴール設定について

第4回　ニーズの構造について

第5回　障害受容について(1)

第6回　障害受容について(2)

第7回　疾患と障害について

第8回　障害の構造について(1)IDHモデルとICFモデルの概念

第9回　障害の構造について(2)IDHモデルとICFモデルの概念

第10回 障害の構造について(3)ICFモデルの活用

第11回 障害の構造について(4)ICFモデルの活用

第12回 障害の構造について(5)ICFモデルの活用

第13回 理学療法実習Ⅰに向けて(1)～理学療法士の倫理観～

第14回 理学療法実習Ⅰに向けて(2)～理学療法士に係る法律～

第15回 理学療法実習Ⅰに向けて(3)～病期における理学療法士の役割～

評価方法

筆記試験　100%

授業時間外の学習(予習・復習等)について

毎回の授業の復習が基本となります。

授業時間外の質問について

随時受け付けます。

教科書

書名	ICFの理解と活用
著者名	上田　敏
出版社	きょうされん

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	リハビリテーション医学			担当者	笠原　弘樹　他	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	総論、各論を実施していく。(概論を知り、各疾患毎の要点や学習すべき要点を理解する。)					
到達目標	現代の医療・福祉場面での臨床において、疾患と障害を様々な医療情報を共有し科学的に捉えるリハビリテーション医学の概要を理解する。					

授業計画

第1回　リハビリテーション医学総論:定義。歴史と現況。　処方・評価・治療。チームワーク。

第2回　リハビリテーション医学各論:整形疾患

第3回　リハビリテーション医学各論:循環器疾患

第4回　リハビリテーション医学各論:廃用症候群

第5回　リハビリテーション医学各論:変性疾患

第6回　リハビリテーション医学各論:変性疾患

第7回　リハビリテーション医学各論:中枢性疾患(高次脳機能を含む)

第8回　リハビリテーション医学各論:地域リハ　(健康と予防。精神心理。)

評価方法

筆記試験　100%

授業時間外の学習(予習・復習等)について

本講義は、複数教員が各単元を担当し、オムニバス形式で行われます。予習には教科書、該当分野を読んでおくこと。復習には、講義時の要点を押さえておくこと。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

生じた質問事項は、直接授業後に担当者に問い合わすか、担当専任教員に相談してください。

教科書

書名	現代リハビリテーション医学
著者名	千野　直一編
出版社	金原出版

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

取り上げる各論を実施し、次年度にある専門科目につなげる学習をおこなう。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	理学療法概論			担当者	越智　久雄	
学 科 名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	理学療法を総論的に理解することを目的に、座学を中心に、理学療法を学習する。					
到 達 目 標	理学療法の輪郭とそれに関する事項を全般的に理解、認識できるように学習し、将来、各論的に学ぶ際の方向付けを得ることを目標とする。					

授業計画

第1回　理学療法とは

第2回　障害とは

第3回　理学療法の歴史

第4回　理学療法の構成と対象

第5回　障害評価のプロセス

第6回　運動療法について(総論)

第7回　運動療法について(筋力増強運動)

第8回　運動療法について(関節可動域運動)

第9回　運動療法について(神経筋再教育)

第10回 リスク管理について

第11回 物理療法について

第12回 日常生活活動と生活関連動作

第13回 正常歩行と異常歩行

第14回 理学療法の実践法

第15回 理学療法評価と治療

評価方法

定期試験　90%　　小テスト　10%

授業時間外の学習(予習・復習等)について

予習:授業の進行に合わせて、教科書と配布資料を勉強しておくこと。
復習:学んだことは確実に復習し、臨床で活かせる知識としておくこと。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えするとともにメールでも受け付けております。
授業時間外の場合は、以下のアドレスにメールしてください。

メールアドレス　hisao.ochi@ocr.ac.jp

教科書

書名	理学療法概論
著者名	奈良　勲
出版社	医歯薬出版

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	日常生活活動学			担当者	中平 剛志	
学科名	理学療法学科	学　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	理学療法士として日常生活活動(ADL:Activities of Daily Living)について考える基礎を学習する。					
到達目標	対象者の障がい像について、生活場面に視点を持って思考することができる。					

授業計画

第1回　理学療法におけるADLの位置付け

第2回　姿勢と動作の基本(1)

第3回　姿勢と動作の基本(2)

第4回　機能障害とADLの関係(1)

第5回　機能障害とADLの関係(2)

第6回　機能障害とADLの関係(3)

第7回　姿勢と動作の応用(1)

第8回　姿勢と動作の応用(2)

第9回　姿勢と動作の応用(3)

第10回 ADLと福祉用具・生活環境(1)

第11回 ADLと福祉用具・生活環境(2)

第12回 ADL評価チャートの特徴と活用(1)

第13回 ADL評価チャートの特徴と活用(2)

第14回 歩行補助具と動作介助

第15回 まとめ

評価方法

筆記試験　100%

授業時間外の学習(予習・復習等)について

毎回の授業について、理解すべき重要ポイントを整理する為のシートを配布するので、各自でまとめて復習をすること。

授業時間外の質問について

随時、受け付けます。

教科書

書名	標準理学療法学　日常生活活動学・生活環境学　第5版
著者名	奈良勲
出版社	医学書院

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	理学療法評価学Ⅰ			担当者	中平　剛志　他	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	4単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	解剖学・生理学や運動学といった理学療法に関連の深い基礎知識の理解を深めながら、代表的な検査・測定技術を学習する。					
到達目標	代表的な検査・測定について必要な知識を理解し、基本的手順に沿って安全に検査・測定を実施できる。					

授業計画

第1回　コースオリエンテーション　理学療法評価プロセス

第2回　骨関節障害と評価(触診・形態測定・関節可動域測定)(1)

第3回　骨関節障害と評価(触診・形態測定・関節可動域測定)(2)

第4回　骨関節障害と評価(触診・形態測定・関節可動域測定)(3)

第5回　骨関節障害と評価(触診・形態測定・関節可動域測定)(4)

第6回　骨関節障害と評価(触診・形態測定・関節可動域測定)(5)

第7回　筋機能障害と評価(徒手筋力検査)(1)

第8回　筋機能障害と評価(徒手筋力検査)(2)

第9回　筋機能障害と評価(徒手筋力検査)(3)

第10回　筋機能障害と評価(徒手筋力検査)(4)

第11回　感覚障害と評価(感覚検査)(1)

第12回　感覚障害と評価(感覚検査)(2)

第13回　中枢神経障害と評価(運動麻痺検査・協調性検査・筋緊張検査)(1)

第14回　中枢神経障害と評価(運動麻痺検査・協調性検査・筋緊張検査)(2)

第15回　中枢神経障害と評価(運動麻痺検査・協調性検査・筋緊張検査)(3)

第16回　中枢神経障害と評価(運動麻痺検査・協調性検査・筋緊張検査)(4)

第17回　脳神経障害と評価(1)

第18回　脳神経障害と評価(2)

第19回　高次脳機能障害と評価(1)

第20回　高次脳機能障害と評価(2)

第21回　高次脳機能障害と評価(3)

第22回　発達障害と評価(1)

第23回　発達障害と評価(2)

第24回　発達障害と評価(3)

第25回　発達障害と評価(4)

第26回　発達障害と評価(5)

第27回　呼吸循環障害の評価(1)

第28回　呼吸循環障害の評価(2)

第29回　実技試験(1)

第30回　実技試験(2)

授業科目	理学療法評価学Ⅰ			担当者	中平　剛志　他	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	4単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	解剖学・生理学や運動学といった理学療法に関連の深い基礎知識の理解を深めながら、代表的な検査・測定技術を学習する。					
到達目標	代表的な検査・測定について必要な知識を理解し、基本的手順に沿って安全に検査・測定を実施できる。					

評価方法

筆記試験90%　実技試験10%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

全日程を参加することが最低限の目標である。自己学習の具体的な方法については、授業内で示します。

授業時間外の質問について

随時、受け付けます。

教科書

書名	理学療法評価学
著者名	松澤　正　江口勝彦
出版社	金原出版株式会社
書名	機能解剖学的触診技術（上肢、下肢・体幹）
著者名	林典雄
出版社	メジカルビュー社
書名	ベッドサイドの神経の診かた
著者名	田崎義昭　斎藤佳雄
出版社	南山堂
書名	JJNブックス　絵でみる脳と神経
著者名	馬場元毅
出版社	医学書院
書名	新・徒手筋力検査法
著者名	津山直一　中村耕三　訳
出版社	協同医書出版社

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	臨床ゼミナールⅠ			担当者	1年生担任　他	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内　容	【前期】前期授業の準備や補習、見学臨床実習に向けた学習・実技を中心に行う。また、理学療法士の仕事内容や役割の理解を深めるための学習を行う。 【後期】前期授業の復習、後期授業の準備や補習、評価臨床実習Ⅰに向けた取り組みを中心に行う。					
到達目標	見学臨床実習・評価臨床実習Ⅰに向けての態度、知識、技術を習得できるようになる。					

授業計画

第1回　入学後の学習方法について

第2回　理学療法(士)を考える

第3回　オリエンテーション、運動学とは

第4回　力学とは

第5回　てこの原理①

第6回　てこの原理②

第7回　身体重心と支持基底面

第8回　モーメント

第9回　計算問題演習

第10回 前期履修科目の補習①

第11回 前期履修科目の補習②

第12回 前期履修科目の補習③

第13回 見学臨床実習の準備・説明①

第14回 見学臨床実習の準備・説明②

第15回 見学臨床実習の準備・説明③

第16回 見学臨床実習の振り返り①

第17回 見学臨床実習の振り返り②

第18回 見学臨床実習の振り返り③

第19回 前期履修科目の復習①

第20回 前期履修科目の復習②

第21回 前期履修科目の復習③

第22回 前期履修科目の復習④

第23回 理学療法プロセスについて

第24回 後期履修科目の補習①

第25回 後期履修科目の補習②

第26回 後期履修科目の補習③

第27回 後期履修科目の補習④

第28回 評価臨床実習Ⅰの準備・説明①

第29回 評価臨床実習Ⅰの準備・説明②

第30回 評価臨床実習Ⅰの準備・説明③

授業科目	臨床ゼミナールⅠ			担当者	1年生担任　他	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内　容	【前期】前期授業の準備や補習、見学臨床実習に向けた学習・実技を中心に行う。また、理学療法士の仕事内容や役割の理解を深めるための学習を行う。 【後期】前期授業の復習、後期授業の準備や補習、評価臨床実習Ⅰに向けた取り組みを中心に行う。					
到達目標	見学臨床実習・評価臨床実習Ⅰに向けての態度、知識、技術を習得できるようになる。					

評価方法

平常点100%
日常的な講義に対する取り組み（発言等の積極性、理解度、グループワークにおける貢献度、提出された課題等）などにより評価を行います。

授業時間外の学習（予習・復習等）について

各授業をもとに自己課題を明確にしておくこと
授業の中で行う取り組みに対して積極的に参加し、自分の考えを他者に伝えること
取り組んだことを振り返り、口頭もしくは書面で説明できるように整理しておくこと

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名	国家試験対策コンテンツ
著者名	
出版社	全国リハビリテーション教育協会

参考図書

書名	
著者名	
出版社	

留意事項

【前期】運動学を初めて学ぶ人も多いと思いますので、復習をしっかりするようにして下さい。計算問題がありますが、掛け算と割り算ですので、難しく考えずに取り組んでください。
【後期】前期授業および見学臨床実習を振り返り、後期の取り組みについて各自が課題を明確にすること。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	理学療法演習Ⅰ			担当者	1年生担任　他	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	実習で必要とされる知識や技術を学び、他学年を対象とした実技練習なども行う。					
到達目標	見学臨床実習に向けて必要な知識と技術を習得し、臨床現場での行動を理解すること。					

授業計画

第1回　実習の心得①

第2回　実習の心得②

第3回　血圧測定①

第4回　血圧測定②

第5回　車椅子操作①

第6回　車椅子操作②

第7回　歩行補助具

第8回　移乗動作

第9回　起居動作

第10回 物理療法器機

第11回 実技練習（医療面接）

第12回 協同学習①

第13回 協同学習振り返り①・実技練習（血圧測定）

第14回 協同学習②

第15回 協同学習②振り返り・総括

評価方法

レポート提出40%　課題提出40%
課題に対する取り組み態度や発言による加点　20%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習：授業の進行に合わせて、配布資料を勉強しておくこと。　復習：学んだことは確実に復習し、臨床で実施できるようにしていくこと。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名

著者名

出版社

参考図書

書名

著者名

出版社

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	理学療法演習Ⅱ			担当者	1年生担任　他	
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	模擬症例での経験を通して、グループでスカッションやワークシートの作成と発表を行う。					
到達目標	評価臨床実習Ⅰに向けて評価学や日常生活活動学などを関連させながら理学療法プロセスを理解する。					

授業計画

第1回　情報収集の実施

第2回　医療面接の実施

第3回　検査・測定の実施

第4回　結果の解釈について

第5回　情報収集とICF

第6回　理学療法プロセスと検査測定

第7回　協同学習③

第8回　協同学習振り返り③

第9回　協同学習④

第10回　協同学習振り返り④

第11回　模擬患者演習【情報収集の実施】

第12回　模擬患者演習【医療面接の実施】

第13回　模擬患者演習【検査・測定の実施】

第14回　模擬患者演習【結果の解釈の考え方】

第15回　実技チェック・総括

評価方法

実技の確認40%　課題提出40%
課題に対する取り組み態度や発言による加点　20%

授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業時間内でのディスカッションに積極的に参加し、意見交換を行うこと。また、ワークシートなどを用いて振り返りを行い、自身の理解を深めるように努めること。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名

著者名

出版社

参考図書

書名

著者名

出版社

留意事項

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。（遠隔授業）授業の実施方法（対面・遠隔）について、変更があった場合は講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験（筆記試験/期末試験）」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	見学臨床実習			担当者	専任教員	□実務教員
学科名	理学療法学科	学　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内　容	学生数名に専任教員1名が同行し、各実習施設にて臨床現場を体験する。					
到達目標	1)理学療法士の業務を体験し理解する。 2)医療従事者としての態度および立場を理解する。 3)臨床現場における学生としての立場および適切な行動を理解する。 4)後期授業に向けて学習意欲の向上に反映できる。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。					

授業計画

1)実習施設指導者の了解の下、理学療法業務の一端を助手的に経験する。

1. 理学療法業務の補助を行う(血圧測定・移乗・対象者搬送など)。
2. 理学療法の治療現場について学習する。
3. 対象者と医療面接を実施し、コミュニケーションを構築する。

2)専任教員は毎日(必要であればその都度)学生へのフィードバックを行う。

3)実習最終日は学内ゼミにて経験内容の共有化をはかる。

実習時間　45時間

評価方法

実習関連(出席・デイリーノート・行動評価表・レポート)おおよそ75%、客観的臨床能力試験おおよそ25%で総合的に判断する。

授業時間外の学習(予習・復習等)について

実習前には前期授業で学んだことを復習しておくこと。
実習後には実習を通して経験したことを振り返ること。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名
著者名
出版社

参考図書

書名
著者名
出版社

留意事項

理学療法士になるには、臨床で受け入れられる人間性が大切です。本実習では対象者との関わりについて重視します。緊張感を持って臨むこと。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。

授業科目	評価臨床実習Ⅰ			担当者	専任教員	□実務教員
学科名	理学療法学科	学　　年	1年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内　容	学生数名に専任教員1名が同行し、各実習施設にて臨床現場を体験する。					
到達目標	1)学生として臨床現場における学習方法を理解できる。 2)適切に情報収集をおよび面接を行うことができる。 3)対象者に検査・測定を実施することができる。 4)次学年に向けて学習意欲の向上に反映できる。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が、最新の知見を基に講義と実技を行う。					

授業計画

1)実習施設指導者の了解の下、理学療法業務の一端を助手的に経験する。

1. 理学療法の治療現場について学習する。

2. 対象者に医療面接を実施し、コミュニケーションを構築する。

3. 対象者に対して検査・測定を実施することができる。

2)専任教員は毎日(必要であればその都度)学生へのフィードバックを行う。

3)実習最終日は学内ゼミにて経験内容の共有化をはかる。

実習時間　　45時間

評価方法

実習関連(出席・デイリーノート・行動評価表・レポート)おおよそ75%、客観的臨床能力試験おおよそ25%で総合的に判断する。

授業時間外の学習(予習・復習等)について

実習前には前期授業・後期授業で学んだことを復習しておくこと。
実習後には実習を通して経験したことを振り返ること。

授業時間外の質問について

授業時間外の質問は、授業前後の時間でお答えします。

教科書

書名
著者名
出版社

参考図書

書名
著者名
出版社

留意事項

理学療法士になるには、臨床で受け入れられる人間性が大切です。本実習では対象者との関わりについて重視します。緊張感を持って臨むこと。

本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。